JFA
skyhoundz news
日本フリスビードッグ協会会報 2000 DEC.
Vol. 19 スカイハウンズニュース

ホームページも見てください
http://www.frisbeedog.co.jp/

Hot Dog: Disc Contest's A Leap

Pooches show prowess at fair

By Catie O'Toole
Staff writer

Fairgoers watching Frank Buckland throw Frisbees to his Australian cattle dog, Jimmy, could easily have thought he was just outside, having fun on a sunny Saturday afternoon.

Little did most people know, the Alpo Canine Frisbee Disc Regional Championship was Buckland's first regional competition.

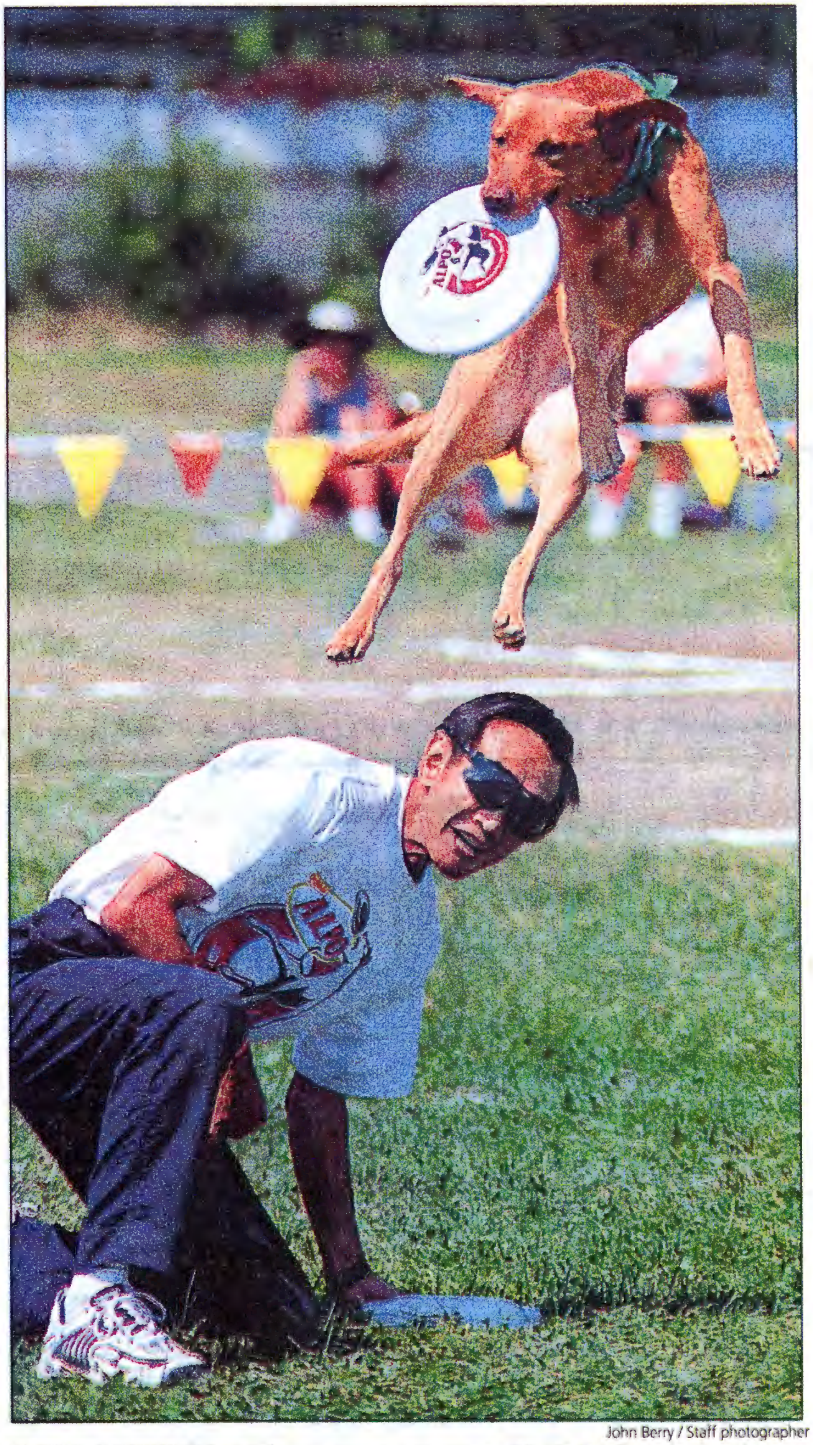
''I just came here for the experience,'' said Buckland of Pasadena, Md., who placed first in the Northeast Open division at the New York State Fair's infield. ''I was a nervous wreck, but it worked out because the dog did the job.''

More on fair
■ Calendar / Stars
■ Reviews / Page B-3

As Buckland's name was called, he said he ''teared up.''

''I expected to be at least 10th,'' he said. Now, he, Jimmy and second-place winner Gail Miabella and her Australian shepherd, Austin, of New London, Conn., will compete at the world championship in New York City in October.

''It was very competitive,'' championship director Peter Bloeme said of the 65 competitors. ''The difference between sec-



John Berry / Staff photographer

YUKIHIRO SEKIGUCHI of Saitama, Japan, competes with his dog Rosa in the Alpo Canine Frisbee Disc Regional Championship on Saturday at the State Fair.

●チャレンジフリーフライト大会、公式レディース選手権の実施
●ディスタンスルール改定
●JFAグランドチャンピオンシップ2000開催
●JFAスタッフ関口行広氏、アメリカへ挑戦　日本人初の入賞をはたす!!

ALPO Canine Frisbee disc

Northeast Regional Championship

New York State Fair

Syracuse, NY

Saturday, August 26, 2000

ALPO Canine Frisbee disc Championships
8/26/00 - Northeast Regional - Syracuse, NY
Winners are determined by doubling the second Freeflight score and adding Distance/Accuracy.

	DISC DOG TEAM	P	A	W	S	1st	DA	P	A	W	S	2nd	TOT
OPEN DIVISION													
1	Frank Buckland & Jimmy (Australian Cattle Dog)	7.0	7.5	7.5	7.5	29.5	6.5	7.5	7.5	8.0	8.0	31.0	68.5
2	Gail Mirabella & Austin (Australian Shepherd)	7.5	7.0	6.5	8.0	29.0	8.5	7.5	7.0	7.0	8.0	29.5	67.5
3	Roger Mitchell & Jesse Jams (Mix)	7.5	7.5	8.0	8.0	31.0	3.0	8.0	7.5	8.0	8.5	32.0	67.0
*	Yukihiro Sekiguchi & Rosa (Labrador)/JAPAN	6.5	6.5	6.5	7	26.5	10.5	6.5	6.5	6.5	7.0	26.5	63.5
4	Jeffrey Hoke & Marley	7.5	7.5	7	9	31.0	5.5	7.0	7.0	7.0	7.0	28.0	61.5
5	Christopher Vitale & Bear (Australian Shepherd)	5.5	7	6.5	7.0	26.0	14.0	6.0	6.0	5.5	5.5	23.0	60.0

* Non U.S. Competitors (Dennis received bye into Final round)

2001年より公式フリーフライト選手権に加え チャレンジフリーフライト大会(以下チャレンジフリーフライトと呼びます)、公式レディース選手権を実施致します。

はじめに

JFAはこの度、ピーター・ブルーム氏来日の際に協議の結果、参加者レベルがある一定の基準になった事とアメリカの本来のフリーフライトという競技が間違った解釈のもとに行われようとしている事に疑問を多く持った為、ピーター氏との協議の上、アメリカのフリーフライトルール（アメリカでは2000年度より一部改定されております。）に、より近いJFAフリーフライトルールをピーター氏合意公認のうえ制定致しました。

2001年度は新たな審査方法と基準のもとに正式公式競技としておこなって行きます。

尚、女性のための公式レディース選手権（ファイナルポイント制）もUSフィールドに於いて実施をいたします。御期待下さい。

ジャッジと採点方法

フリーフライトには通常は4人のジャッジがあたります。

ジャッジは以下の4部門を基準に1人が1部門のみを審査にあたります。

その4部門とは、ディフィカルティー（技の難易度）、エクセキューション（技の完成度）、リーピング（犬自身の飛び、跳ねる、機敏性等も含む）、コンビネーションです。全ての競技終了後、4部門を合算、合計で各プレーヤーの得点が算出されます。

また、フリーフライトは犬の種類、サイズ、ジャンプ力など全てに公平になるように審査方法と基準がきめられております、もし、あなたの犬がジャンプを苦手とした犬であったとしても他の技でカバーできる競技が本来のフリーフライトなのです。

現にフリスビードッグデモショーや皆さんの講師として来日した事もあり、我々との深厚のあるピーター氏の親友でアメリカの競技スタッフでもありますジェフ・ペリー氏はボルトといった技を使用せずワールドチャンピオンになりました。98年女性で初めてのワールドチャンピオンになったメリッサ・ヒーターも同じケースです。

本場アメリカに於いてもフリーフライトの公認ジャッジは少数です。ましてや日本においてアメリカの正式な採点基準、採点方法の講習をうけ内容を理解しているものはJFAスタッフの一部に過ぎません。

審査方法と審査基準（2001年度用、従来とほとんど同じ）

5枚のフリスビーディスク（以下フリスビー）を使い60秒以上90秒以内に演技を行う。

人が犬に対してフリスビーを投げた時、または音楽（CDを使用）が始まり10秒経過した時点でスタートを致します。

通常ジャッジは4人で行います、各ジャッジが10点満点を最高とし得点をもち1人のジャッジが1つの部門（項目）のジャッジを行います。それら4部門4名のジャッジの合計がそのチームのポイントとなります。

決して4名のジャッジが同じ対象で審査を行い、それらの合計点より平均を算出するような単純な方法ではありません。

審査4部門について

ディフィカルティー（難易度）

その犬の種類、サイズ等を考慮した上で、成功した技の難易度の数で得点を決める。技は全体で20以上行う事が望ましく、その成功率なども考慮される。

エクセキューション（完成度）

その犬の種類、サイズ等、またその技の難易度も考慮した上で、　それぞれ成功した技の完成度にて得点を決める。技は全体で20以上行う事が望ましく、その成功率も考慮される。

リーピング

（犬自身の飛び、跳ね等……文章中はジャンプという言葉で表現）

その犬の種類、サイズ、技等を考慮した上で、ジャンプの高さ、幅、ジャンプ時のひねり等を成功したジャンプの数で得点を決める。この部門では犬自身のジャンプ能力が審査対象となるため、人の体をかりてジャンプを行うボルト、カタポルト等は審査対象にはならない。ただし、ローラー、バタフライ等は技とみなし審査対象となる。

コンビネーション（ショーマンシップ）

刺激的な演技、絶えまない流れ、全体の構成、技と技の間のスムーズな動き、フィールド全体の使用率、長中距離の演技バランス、ファイナルポジション（演技終了時）、技の成功率等で得点を決める。

注意事項

全てに言える事は「同じ技」を3回以上行わない事が望ましい。

尚、マルチプルなどの連続技等の場合はこの限りではない。

また、各ジャッジがどの部門を審査するかは公表されない。

60秒以上90秒以内であればどの時間で終了しても得点には影響されない。

ディスタンスルール改定

＊公式選手権（公式ポイント発行）に於いては全てUSコートにて実施致します。最小幅を8mとし最終エリアを9、10ポイントと致します。従いまして1・2／3・4／5・6／9・10となります。

＊フリスビービギナー大会は従来実施のチャレンジ大会です。（名称改定）

コート、ルール共に同じです。ただしフリスビー以外は使用できません。

＊その他の大会は、0ポイントエリアが復活致します。スタートラインより7.5m迄は全て0ポイント。以後7.5m毎のエリアに対し各1・2／3・4／5・6ポイントとなります。

◆改訂事項

競技中に於いて競技者及び競技犬は1投毎に、スタートライン内に戻らなくてはならないものとする。また、特別な場合を除き競技は全て一方通行とする。

JFAグランドチャンピオンシップ2000は
57チーム（ノミネート48、敗者復活より9）によって行われました。
本年度のグランドチャンピオンには飛騨野文泰&ラン（北海道）に決定!!
優勝杯が初めて北海道に渡りました。

準優勝には4ポイント差で田尻五郎&3（東京）、第3位は大塚裕&ジャッキー（埼玉）に、以下4位には団野&アニー（大阪）、5位平舘&アンディー（群馬）、6位丸山&マーク・オメーラ（千葉）、7位に新倉&あいちゃん（北海道）がそれぞれ入賞を果しました。

尚、公式フリーフライト部門は僅差の結果、塚崎誠次&モネ（京都）がチャンピオンに、準優勝はわずか0.5ポイント差で横山直正&MINNIE福来（静岡）、第3位もさらに0.5ポイント差で飛騨野文泰&もんちゃん（北海道）に決定。本年度より開始致しました公式ロングディスタンス部門は全て今年度の各大会優勝者によるノミネート制にて行われました。男子の部（15チーム）は58.10メートルで平舘憲一&アンディー（群馬）が狙いすましたように初代チャンピオンに。また女子の部（14チーム）は46.80メートルで三木かおる&やまと（山梨）チームが初代チャンピオンに決定致しました。

また、年間最多獲得ポイントチームは310ポイントと圧倒的な強さと堅実さで有言実行の三本欽麗&カイザーソゼに決定致しました。

11月3日から5日に行われたジャパンファイナルデーにはノミネートチームをはじめ500チームを越える参加者がありました。

参加者の皆さんありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

本年度は52日間、183戦（本部主催）の開催に述べおよそ7500名の参加者（各クラブ主催の大会及び講習会を含む）に楽しんでいただきました。

昨年との比較に於いては開催日数で7日間、参加者では2500名の増加がありました。内容的にも毎年、目をみはる勢いでレベルの高い参加者が増えております。一方でいくつかの問題点、反省点も増えてきていることも事実です。

それらの問題点等をふまえ、楽しんでいただく事を前提とし、よりレベルとモラルの向上に勤めて行きたいと思います。

本年度のジャパンファイナルは協会設立7年目で初めて関西は神戸市で実施を致しました。11月5日は特に7年目の段階に於いて初めてジャパンファイナルらしい開催と演出が出来た事をスタッフをはじめ協力関係者の方、スポンサーの方々に感謝を致しております。一つだけ残念な事は観戦者が以外と関東に比べ少なかった事です。しかしながら関東地区に於けるジャパンファイナルもはじめから多かったわけではありませんから回数を重ねる度に認知を受ける事でしょう。また、今回のファイナルには初めて海外会員のエントリーがあった事も見のがせません。韓国から公式フリーフライト選手権に参加された沈さんです。結果は今一つ残念でしたが来年は検疫という難関を乗り越えコンディションを整え、今回見せてくれたパフォーマンスで再度チャレンジしていただきたいとおもいます。

今年はそれとは逆に海外遠征チームもおりました。協会本部の古くからのスタッフで協会デモチーム「チームスカイハウンズ」のメンバーでもあり、クラブ埼玉のクラブ長でもあります関口行広&ローザ（ラブラドール）がJFAの名誉会長でもありますピーター・ブルーム氏のはからいと協力により8月下旬にアメリカシェラキースで行われた競技会に参戦、日本人では初めての入賞を（第4位）見事はたしました。（いつもながらピーター氏のJFAメンバーに対する配慮には感謝を致す次第です。）

この事は現地の新聞でもトップニュースとして報じられるほどでした。（会報表紙がその記事です）当協会に於いても非常に名誉に思います。

そして最後になりましたが、今年はとても残念で不幸なこともありました。1999年度JFAジャパンファイナルチャンピオン犬、小林昭夫さんの愛犬めい（ゴールデン）の急死です。

元気な姿でいてくれればJFA初となる2年連続チャンピオンの可能性と期待があっただけにとても残念に思えてなりません。

この場を借りまして1999年度グランドチャンピオン犬「めい号」の御冥福をお祈りいたします。

JFAでは2001年度の日程を調整致しておりますが、開催は50日間、ジャパンファイナル開催地は関東、開催開始は1月27日、28日の静岡県からの公式シリーズ選手権より開幕予定です。

ジャパンファイナル	1大会　（USコート）
公式シリーズ選手権	11大会（USコート）
公式オープン選手権	20大会（USコート）
公式トーナメント選手権	20大会（USコート）
公式フリーフライト選手権	9大会
公式レディース選手権	15大会（USコート、新設）
公式ロングディスタンス選手権	10大会
チャレンジ大会（トーナメント含む）	30大会（現コート、一部改正）
チャレンジフリーフライト大会	15大会
小型犬大会	15大会（現コート、一部改正）
子供大会	10大会（現コート、一部改正）
フリスビービギナー大会	20大会（現、チャレンジ大会）

ビギナー大会（もってこい大会）は、各クラブ単位で実施。

詳しくは年内最後の会報にてお知らせ致します。

JFAスタッフ関口行広氏　アメリカへ挑戦
日本人初の入賞をはたす!!

8月24日12時発JAL6便。私は今回の渡米に必要な繁雑な手続きを何とかすませ、ローザと供に機上の人となった。恥ずかしながら人生も折り返し点を過ぎたというのに私には夢があった。4年前に初めてUSファイナルを見て以来、本場アメリカのコンテストに参加してみたいという夢。それがこの夏、ひょんな事から現実味を帯び、とうとう実現したのだ。本当に夢のような話！しかし私の巻き添えをくい、成田まで2時間、ニューヨークのJFKまで空路13時間、大会が行われるシェラキースまで車で6時間（シェラキースにも小さな空港があるのだが、前号のピーター先生からのメッセージにあったように夏場の犬の空輸は認められないため）合計21時間の輸送を強いられるローザの事が不安だ。そんな私の気持ちに追い打ちをかけるように離陸と同時に貨物室からローザの鳴き声が聞こえて来た。

現地時間24日午後6時半なんとか無事にシェラキースのホテルにチェックイン。

ここシェラキースはニューヨークの北約600km、カナダにかなり近い。そのため昼間の気温は22、3度だが、朝晩はフリースが必要だ。

USファイナルでは大会に敬意を表して、皆真新しいスニーカーをはいてくる。私もそれに習い45ドルのリーボックを購入する。ついでに今アメリカで一番流行っているというブリットニー・スティアーズのCDも11ドルで買う。

8月25日

午前3時、目が覚めてしまった。日本との時差13時間。今後も時差ぼけのため毎日この現象に悩まされることになる。ここアメリカでは犬と同室なのはいいが、治安がよくないため朝夕の排便にも警戒が必要だ。

5時30分フロントに集合。スタッフ及びアルポ関係者は地元テレビの生放送があるためテレビ局に向かった。USAスタッフは日本でもおなじみのピーター・ブルーム、ジェフ・ペリー、3回ワールドチャンピオンの経験があるゲーリー・スズキ、エルドン・マッキンタイヤー、マーク・フィル、が主なメンバーである。過去2回の渡米でスタッフとも顔なじみになっていたので、私も同行する。撮影はスタジオではなく局の庭で行われた。デモはゲーリー・スズキとサイトウ・スシという9歳のオスのオージー。エルドンさんがヨーキーとマリノアを使ったコミカルなもの。MCはピーター先生が担当した。

7時にホテルに戻り朝食をすませ9時に大会の会場に向かう。私がエントリーした今大会は年間6カ所で行われる公式戦の1つで上位2チームがファイナルに出場できる。

そして会場はニューヨーク・ステイツ・フェアーと呼ばれ州が行う1カ月間にわたるイベント会場の1画にある。広大な空き地に遊園地、動物園、水族館、バンジージャンプ、ありとあらゆるものがそろっている。しかもそのすべてが移動式の

ものなのだから驚く。皆アメリカ各地からモーターホームとともに営業に来ているのだ。アルポ・ケーナイン・フリスビーディスク・レジーナル・チャンピオンシップは3日間のイベントで1日目3日目はデモで2日目の26日に大会が行われる。本来なら今日私はOFFで1日休業に当てたいところなのだが、友好的なスタッフの手前そんな訳にもいかず1日3回行われるデモを見学する。

午後7時、スタッフ、アルポ関係者とともに夕食に向かう。少しビールを飲んだが時差ぼけと疲労のため眠くてしょうがない。ローザもかなり疲れているようなので、ホテルの部屋の中ではバリケンに入れなくてはいけないのだが、今夜はソファに寝かそうかと思う。

8月26日

午前7時ホテル出発。イベント会場まではかなりの交通渋滞で、イベントの人気の高さをものがたっている。

過去2回USファイナルを見た経験からアメリカのトリックや日本とのレベルの差は知っている。だけど臆する事なくあえて挑戦したかった。6年しか歴史のない日本人でもこれぐらいできるということを見てもらいたかったし、日本にはこんなラブラドールがいるということを知ってもらいたかった。

ローザの体調は可というところか。食事は今年から遠征時には消化吸収のよい缶フードを使うようにしている。そのほうが便の量もかなり少ないし、犬の負担が少ないと聞いたからだ。また水は冷たいミネラルウォーターを少量。

9時30分、エントリーを済ませる。アメリカではオープンデビジョンとスポーツデビジョンという2種類の競技がある。オープンデビジョンは先ずフリーフライトを行いその上位8チームがディスタンスと2R目のフリーフライトに挑戦できる。スポーツでビジョンはディスタンスのみだがこれにはファイナル出場権はない。今日のエントリー数はオープンが27チーム、スポーツが38チームである。

我がチームとカナダからのチームは国外からの参加ということで上位8チームに入らなくてもディスタンスと2R目のフリーフライトまで競技ができ、合計10チームが決勝に進むという説明を受けていたが、お情けではなく自力で進みたかった。日本を離れる前からフリーフライト25ポイント、ディスタンス10ポイント以上が自分で決めた目標だった。ディスタンスにおいては、コートの形、大きさ、ゾーンの点数配分がまるで違う。自宅にパソコンのある方は、アメリカのスカイハウンズのホームページに詳しく出ているので、後学のため開いてご覧になればよい。飛距離よりコントロールが要求される。

10時30分、非常に簡素なオープニングセレモニーの後、スポーツデビジョンの競技が始まった。38チームのエントリーなので、1時間後には始まるであろうフリーフライトの前に、近くの出店に行きホットドッグとペプシを注文することにした。その時店の主人から「日本から来たプレイヤーはおまえか？」と聞かれたので「Yes.」と答えると「It's crazy」という言葉が返って来た。「That's right」と心の中で頷く。

オープンデビジョンの競技が始まった。実は今日1日カナダのテレビクルーが私に張り付いて、つたない英語でのインタビューやちょっとそこで練習してみてくれなどのリクエストがあった。ことらにもやりたいことがあったが、なるべく応じるようにする。

私の出番は26番目。時間を計算しながら20分前にボルト用ベストを身につけアルポのTシャツを着る。このTシャツは競技中身につけることを義務づけられている。

いつもながら「出番はまだか。」と武者震いをして待っているローザなのだが、やはり疲れているのか、あまり覇気が感じられない。私はといえば、だめでもともとという気が強か

ったせいか、案外落ち着いているように感じた。

ついに私の番が回って来た。PAのスタッフにCDを渡しコートの中に入る。フリスビー5枚を受け取り、スタートポジションにつき、「Play music」と言う。落ち着いているつもりでも、手足の動きがぎこちない。得意のボルトは決まったが、できは余りよくない。ミスキャッチがふだんより多い気がした。しかしテントにもどると。「Good!」という言葉が耳に入った。ピーター先生からもそう言われたが、私は「No」と答えた。仕方がない。だけど精一杯やったんだから。ポイントは26.5。結果はパソコンに打ち込まれすぐに順位が出てくる。ピーター先生から「Hiro, 5th place」と聞いたときは、目標にしていた自力での予選通過だったにもかかわらず、感動がわかない。実感がまるでないのだ。

休む間もなく、ディスタンスの練習が始まった。ダウンウィンドの風があったので、スローイング位置をよく考えて決める。1R目は風のことが視野にはいらなかったが、これからは気をつけよう。目標は10ポイントだ。日本と違い点数配分がかなり低い。2ポイントゾーンに4投、ジャンピングキャッチで10ポイントを狙う。うまく行った。4投で10.5ポイントゲット。ステージの上や、観客に囲まれた狭い場所でのデモの経験が役に立った。

2R目もできはよくないと感じたが、終わった瞬間、自分の思いを果たしたという気持ちからいつもより大きく手を挙げていた。

ローザは本当によくやってくれた。こちらでは日本以上に犬のポテンシャルを評価するようだ。あちらこちらから「Good, Good dog!」と声がかかる。そこから表彰式までのことはあまり覚えていない。

本部テント前には6個のアルポの赤いバッグとキャプ　フリスビー。そしてその前には同じものでも意味の違う2個のバッグ。

8位から表彰が始まった。何とかあの赤いバッグがほしい。今呼ばれるか、この次かと緊張が走る。5位までが発表され、諦めかけたとき、「4th place, Yukihiro Sekiguchi from Japan!」の声がした。信じられなかった。回りから「Good job!」という温かい言葉が何度も聞こえた。これだ。この声援が聞きたかったのだ。ここまで夢を追いかけて来てよかった。

その後カナダのテレビ局のインタビューに答えるが、意味が通じたか分からない。

大会終了後ピーター先生やジェフ・ペリーにバンジージャンプに誘われるが、とんでもない。そんな気力が残っているはずがないでしょ。

みんなと食事をした後、部屋に戻り、ローザと共にやっと4位入賞の喜びをかみしめ、これまでのことを思い返してみる。1頭目のフリスビー犬だったヴェルディ。協会にデモンストレーターとして採用され、これからというときに訪れた突然の死。そして急遽知人の紹介で巡り会った1歳半のローザだったが、気が弱く、引き取りに行くときにはブルブルと震えて机の下から出て来なかった。ボールしかしらないローザになんとかフリスビーを教え込みフリーフライトを始めるが、相変わらず気が弱く、人前では思うように動かなかった。小型犬が近寄ってくるだけでも、バリケンの中に逃げるほどだったのだ。それが今は何という変わりようだろう。21時間の輸送にも耐え、アメリカの犬に引けを取らず立派にプレイしたではないか。たいした奴だ。

8月27日

朝、ニューヨークへの移動の準備をしているとピーター先生からの電話が鳴った。「新聞を見たか？」と聞くのでもちろん「No」と答える。「お前の写真が新聞に出ているから、早

く見ろ。」と教えられ驚く。本当だ。日本から来た（クレイジーな奴）ということで採り上げられたのだろうか、いい記念になった。ラッキーだった。

夕方ニューヨークに着きローザと共にセントラルパークを散歩する。やはりセントラルパークには犬連れの人が多く、ジャックラッセル、ハスキー、ダックスフンドが目立った。中にはディスクを投げている人もいた。30分ほどで帰って来たが、一回りしようと思えば半日かけても足りない。今年のUSファイナルはここで行われると言うことだ。

8月28日

午前6時半タクシーでJFKに向かう。もちろんローザも座席でOKだ。検疫のために必要な手続きがあるので、10時30分発の飛行機なのにこんなに早く出発する。また拙い英語を駆使しなければならない。案の定、空港内の獣医だけでは用が足りず、近くの獣医に走ることになる。だが、いいこともあった。名前を呼ばれるのでカウンターに行くと、係員から「Lucky day!」と言われた。空席がたくさんあると言うことで、エコノミーからビジネスに変更されたチケットを渡された。ここ2、3日はラッキー続きだ。この先の運を皆使い果たしてしまったのでは、と少し不安になる。

8月29日午後12時35分。JAL047便にて成田に到着。私の4泊6日の旅はここで終了した。しかし相棒のローザにはこれから2週間の検疫が待っている。「ごめんね。でもお前は本当にいい犬だよ。」

9月3日

今日は成田にいるローザの面会に家族とともに行った。検疫は獣医の裏書があれば15日間なければ30日間、動物検疫場に留め置かれる。面会に行くにも予め日時、氏名、年齢など細かな届け出が必要になる。

動物検疫場は滑走路脇にあり、四六時中飛行機の爆音がする。検疫所の人に聞くとこの爆音と、飼い主から見捨てられたという思いから、萎縮して体調を崩す子が多いという事だ。しかしローザは元気だった。すこぶる元気だった。係の方に随分可愛がってもらっているようで、検疫所生活をエンジョイしているようだった。私達が帰る時もさみしそうにする訳でもなく素直に犬舎に入って行った。2時間もかけて飛んで来たのに、ちょっと拍子抜けする程であった。だがそれこそがローザのよさであり、今日まで私とローザがいろんなところで重ねて来た経験の賜物なのだと、納得する。

今回のアメリカ行きは私一人の力では、全くなし得なかった。これに協力してくれたピーター先生はじめUSAスタッフ、JFA本部スタッフ、クラブ埼玉のメンバー、地元の仲間、家族に御礼の言葉を捧げたい。もちろん我がグレートドッグ、ローザには最大級の感謝を込めて「ありがとう！」

2000年9月3日
日本フリスビードッグ協会
関口行広

「ウインターセール」のお知らせ

- 期　間　12月10日から2001年1月15日
  （競技会場では摘要されません。通販のみ）
- 対　象　JFA会員
- 対象商品　フリスビー（ミニフリスビーは除く）
  小型ディスク
- セール価格　15%引き

これから寒くなってきますとフリスビーはプラスチックの特性上、ほんの少しの衝撃でも場合によっては割れやすくなります。御理解を宜しくお願いするとともに12月10日より2001年1月15日までの期間、ウインターセールを実施致します。従って今回の対象は「フリスビーディスク」（ミニフリスビーは除きます。）です。通常のフリスビーと同じ製品ですが現在庫数およそ2000枚がなくなり次第終了とさせていただきます。

価格はそれぞれの通常価格の15%引きです。詳しくはお電話で。どうぞ、御利用ください。

尚、インストラクター及び各クラブにはセール価格（15%引き）は摘要されませんのでご了承下さい。

うれしい動物の

専門学校が

WAN
WORLD ANIMAL & AQUARIUM NETWORK

できました。

学校説明会 **毎月開催中**

日程・会場など詳しくは、お問い合わせください。

資料請求無料 お気軽にお申し込みください。

アニマルセラピー・コーディネーター学科／3年

動物管理学科／2年
- ペット美容・グルーマーコース
- しつけインストラクターコース

動物看護士学科／2年

海洋生物・ネイチャーアクアリウム学科／2年

学校法人　国際総合学園

県知事認可校

国際ペットワールド専門学校

Tel.025-240-8321 Fax.025-240-8931

〒950-0911 新潟市笹口2-13-4（新潟駅南口から徒歩5分）

E-mail wan@nsg.gr.jp

NSGカレッジリーグ

新潟県で信頼と実績を誇る専門学校グループ。16校のネットワークが最高の教育環境をつくります。

CHORI
WORLD PETLIFE PARTNER

栄養バランスにも、素材選びにもこだわりました。
1袋で良さがわかるプレミアムフードです。

幼犬用
（グロース）
離乳期から1歳位まで
発育期の愛犬の強い骨格と筋肉を育てます。妊娠後期・授乳犬にも。

—— 年齢に合わせて選べます。 ——

高齢犬用
（シニア）
6歳位から8歳位以上
高齢犬の食欲を誘い、健康な体を維持します。

成犬用
（メンテナンス）
1歳位から7歳位まで
成犬の健康を維持し、毎日の活力を養います。

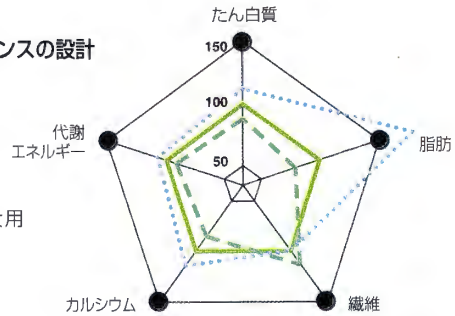
1ST CHOICE®

おいしさとヘルシーを両立した
世代別健康管理食
ファーストチョイス

私たちが、年齢によって必要な栄養が異なるように、犬にも成長段階に適した栄養バランスがあります。ファーストチョイスは、獣医師が開発した、カナダ生まれの世代別健康管理食。おいしさとヘルシーさを両立した理想的なドッグフードです。

- ●おいしくて消化吸収に優れた、鶏肉と食用コーンが原料。
- ●過剰な動物性脂肪をカットした、低脂肪/低カロリー食。
- ●病気の予防を考え、植物性油脂を使用した低コレステロール設計。
- ●皮膚の健康を維持し、美しい毛艶を作る、必須脂肪酸とミネラル配合。
- ●腸内生菌を活性化し、便質を安定させる食物繊維と酵母入り。

成長段階ごとに異なる栄養バランスの設計
（成犬用を100とした場合）



…… 幼犬用・妊娠後期／授乳犬用
—— 成犬用
- - - 高齢犬用

※ファーストチョイスには愛猫用の世代別健康管理食のラインナップもあります。

生活文化貢献商社 蝶理株式会社
ファーストチョイスお客様相談室 0120-30-1249